

## 第68回 関東地区高等学校PTA連合会大会 神奈川大会 参加報告

開催日: 令和4年7月9日(土)・10日(日)

会場: パシフィコ横浜 会議センター

参加者: 中野教頭先生、石井後援会会長(兼 埼玉県高等学校PTA連合会会長)  
松永PTA会長 (オンライン参加) 早坂、圓谷、古川、池長

第68回関東地区高等学校PTA連合会大会 神奈川大会に参加しました。過去2回、新型コロナウイルスの感染状況をふまえて中止となった本大会は、3年ぶりの開催となり、1日目の全体会は、会場参加とオンライン参加も併用したハイブリッド開催となりました。

【全体会】 7月9日(土)

アトラクション: 神奈川県立相模原中等教育学校 クラシックギター部  
神奈川県立厚木高等学校 ダンスドリル部

記念講演: 「自分という人生の長距離ランナー」

増田明美氏(スポーツジャーナリスト・大阪芸術大学教授)

高校生による美しいギターの調べと、元気いっぱいのダンスで華やかに幕を開け、同県出身である、俳優の谷原章介さん、体操金メダリストの白井健三さん、フリーアナウンサーの羽鳥慎一さんがビデオメッセージを寄せる中、3年ぶりの開催であることも含めた会場の盛り上がりを感じました。

記念講演では、増田明美氏による「自分という人生の長距離ランナー」というテーマで、ご自身のマラソン競技人生を経て、現在スポーツジャーナリストとして活躍されている増田さんならではの視点で、日々、高校生と関わる私達大人にとって、沢山のヒントとなるお話をいただきました。

増田さんは、ロス五輪の代表選手として出場した際に途中棄権という結果になってしまったこと、その後の辛い体験とジャーナリストとしての活動を回顧され、「当時の自分の心の在り方が良くなかった。スポーツは心・技・体が揃っていることが求められるが、やはり自分という土台がないと本当の意味で活躍できない。スポーツ指導も以前とは変化しており、自分で考えさせるような指導者もとの選手が伸びてきている。高校生の親御さんには、お子さんが自分で考えて進んでいけるように、信じてくれる、見守ってくれる『良き伴走者』であっていただきたい。」という言葉が強く心に残りました。

【分科会】 7月10日(日)

第5分科会 「学び、行動するPTA」

演題 青少年のゲーム・インターネット依存の現状と治療

講師 樋口 進 氏(久里浜医療センター 名誉院長)

2日目午前の分科会のテーマは、昨今報道でも扱われるようになった「ゲーム・インターネットへの依存について」でした。講師の樋口先生は、「ゲーム行動症(ゲーム依存症)」治療に2011年から取り組まれており、2500名以上の患者を診てこられた方です。

樋口先生は、国内のゲーム・インターネット依存が懸念される人の割合は、海外諸国とほぼ同水準であることや、依存性の高いもの、そのリスク・防御となる因子について、資料を用いて幅広く現状を教えてくださいました。また治療の経過や、家族としての寄り添い方に至るまで具体的なお話をいただき、貴重な体験となりました。講演の終わりに語られた「これは若者の問題と捉え、学校やPTAでの予防教育や、相談サービスの充実、提供する企業側の対応など、包括的な対策が必要である。」という内容には深く考えさせられました。

その他、午後は4つの分科会に分かれた内容が映像配信されました。各校の取り組みは以下の通りです。

第1分科会「学校教育とPTA」 提案校: 千葉県立沼南高柳高等学校・茨城県立高萩清松高等学校

第2分科会「進路指導とPTA」 提案校: 埼玉県立皆野高等学校・群馬県立渋川工業高等学校

第3分科会「生徒指導とPTA」 提案校: 群馬県立太田高等学校・栃木県立足利工業高等学校

第4分科会「家庭指導とPTA」 提案校: 山梨県立甲府東高等学校・神奈川県立小田原高等学校

コロナ禍以前のPTA活動を知らない私どもにとって、横の繋がりを感ずることのできるこのような大会は、日常の活動の励みになり、勉強にもなった非常に有意義なものとなりました。開催までの状況が見通し難い中、大会を運営して下さった神奈川県の皆さんの取り組みに頭の下がる思いです。来年度の開催予定は栃木県とのことです。大会を通して学んだものを、今後の活動に活かしていきたいと思います。 (文責 本部)

